

## 平成 30 年度 新任職員研修復命書

所属施設	鼎あかり保育園	職種	保育士
<p>あかり保育園でお世話になって 5 か月、私は 2・3 歳児クラスで子供達が</p>			
<p>がどんどん言葉を覚えたり、食事や排泄、衣服の着脱が自分の力で出来る</p>			
<p>ようになったりと日に日に成長していく姿を見てきました。生まれてから</p>			
<p>まだ 2・3 年の幼い子供たちが、その短い期間に親や家庭環境によって</p>			
<p>様々な個性を持って、保育園という新しい社会へ生活の場を広げます。そ</p>			
<p>こで私たちは保育士や友達との関わりの中で多くの体験をしていきます。</p>			
<p>今まで親に頼っていたことを自分でやってみようと思う気持ちがあつて</p>			
<p>も、発達段階の未熟な指先や身体の動きに苦戦することが多くあります。</p>			
<p>大人が手伝おうとすると一人でやり遂げたい意志が「自分で」という言葉</p>			
<p>に出てきます。この小さながんばりの積み重ねが子どもを大きく成長させ</p>			
<p>て行くのだと思います。それに加えて、あかり保育園の先生方が一人ひと</p>			
<p>りの育ちをしっかりと見極め話し合いを重ねながら日々の保育に取り組ん</p>			
<p>でいることが子どもたちの育つ力をよりたくましく豊かにしていると感</p>			
<p>じます。その先生方の原動力になっているのが、研修で学んだ「忘己利他」</p>			
<p>の精神です。常に子供たちを優しく包むほのかな灯を、時には子供を力強</p>			
<p>く導く希望の灯を子供に寄り添い一隅を照らし続けています。</p>			
<p>理事長さんのお話の中で、萱垣会の原点は養老院「萱垣寮」というこの</p>			
<p>地域で最初の福祉施設であること、そして福祉の原初は宗教であることを</p>			
<p>お聞きしました。宗教とは尊い教えで、人々の心を支え、さらにその教え</p>			
<p>の元、福祉という社会に必要とされる施設や制度をも導き、私たちの生活</p>			

をも支えていると思いました。老人福祉を中心に時代のニーズに応じて
きた萱垣会の基本理念は保育現場でも共通していると再認識しました。
萱垣会の職員として、又、鼎あかり保育園の一員として、一隅を照らす
存在になるように努力していきたいです。
こちらに勤務する以前に、夫の祖母が萱垣会の施設でお世話になっていま
した。ゆめの郷の開設から8年間入所させていただき、2年前に103歳の
大往生で亡くなりました。入所までの7年半は、3か月から6か月ごとに
介護施設を次々と移る生活をしていました。15年以上寝たきりでゆめの
郷に入所する頃には言葉もほとんどなかったのですが、広いユニットや
個室で職員の皆さんにあたたかく見守りお世話していただき、安心して
快適に過ごすことができ、祖母の表情もより穏やかになりました。その頃
中学生だった息子が「おばあさんいいな。僕もここに暮らしたい」と言っ
た言葉が祖母の気持ちを代弁していたように思います。今回ともに研修を
受けた介護職の皆さんもたくさんのお年寄りや家族を支える大きな力に
なると思うと、ほんとうに頭が下がります。ちょうど研修で隣席したベト
ナムの研修生が私達日本人でも難しいお話を熱心に聞き、分からない事を
私にまで質問してくれたことに感心しました。国を超えて、年齢を超えて、
人と人とが交わる中でお互いが学び合い成長していくのだと実感した
一日でした。ありがとうございました。

## 平成 30 年度 新任職員研修復命書

所属施設	第二光の園	職種	ベトナム EPA 介護士
<p>萱垣会は昭和 24 年から「照千一隅」という理念を持っています。</p>			
<p>照千一隅とは一隅を照らすことである。自分のことを忘れて、他の人を考えます。自分の立場ではなく、相手の立場で考えて行動します。特に、介護の仕事には利用者さんの立場で考えることが大切です。</p>			
<p>人間には生・老・病・死を避けることができないものです。そして誰でも出来れば最後までいい人生を作りたい。楽に生きたいので、孤独にならないように利用者さんのそばにいてあげて、いつでもどこでも利用者さんの希望を聞き尊重することが大切な事です。そして利用者さんに安心させ、信じていただくのも大切なことです。</p>			
<p>介護士は手で手伝うだけではなく、心を込めて笑顔で介助する役割です。そして、行動につきものは言葉です。目が見えないことは何もできない事ではないので、言葉づかいにも気を付けなければなりません。利用者さんと仲良くて親しすぎる事のないように丁寧な言葉を使って対応していかなくてはなりません。</p>			
<p>私達はそれぞれの心の中に仏性という仏様の性質を持っているので、それを引出し、磨き上げるのが大切です。</p>			
<p>自分は完璧なものではなく、まだ多くの欠点がありますが、そういう理念を持って、いい介護士になれるように頑張ります。</p>			

## 平成 30 年度 新任職員研修復命書

所属施設	広済寮	職種	管理栄養士
<p>3/19 法人の基本理念と歴史とビジョンや職員の心構えと基本姿勢の講義を受けて、「一隅を照らす」言葉の意味を学びました。ゆうらく苑で働き始め利用者さんの希望と一緒に編みぐるみを作って来た事が利用者さんの自己実現を支えることに繋がったのであったら嬉しいなと感じながら聞いていました。次は管理栄養士として何が出来るかを考えていきたいと思いました。</p> <p>接遇マナーの講義では、尊敬語・謙譲語の区別の仕方など解りやすく言い方や対応の仕方などとても勉強になりました。相手に好感を与えられるように、テキストを見ながら自分の言葉づかいや行動を見直していかなくてはと感じました。</p> <p>3/20 赤石寮での看取りの話は聞いていて涙が出ました。利用者さんへの想いがあふれていて、私も最後はこういう看取りをされたいと思いましたし、利用者さんの気持ちやご家族に寄り添えるように勤めていきたいと思いました。</p> <p>誤嚥性肺炎という、食事中に食べ物が気管支に入っていく事が原因だと思っていましたが、食事以外でも口腔内がキレイでないと唾液が気管支に入って肺炎になる事を知りました。食べる楽しみを感じ続けて頂くためにも口腔ケアの重要性を再認識しました。</p> <p>3/21 介護の基本とコミュニケーションでは、アイスブレイクという言葉の意味を知りました。いきなり話しだすのではなく、リラックスできるよ</p>			

うに働きかけ、本心を聞き出すことができるようにして会話をしてみよう  
と思いました。介護技術では疑似体験をさせてもらい声掛けがあるか無い  
で安心感の違いが解りました。利用者さんとのコミュニケーションが大切  
なんですね。認知症サポーター養成講座では、認知症の症状が出てくると  
本人もそれに気付くことを知りました。周りにいる人の対応で余計混乱し  
てしまう事も納得できました。本人の言葉や行動を正すのではなく、寄り  
添えるような形でサポートできるようにしていきたいと思いました。

**3/22** 視覚障害者のある方への援助では、アイマスクをして階段を上がる  
下りる事がこんなに不安で怖いことだと知りました。応急処置では食べ物  
が気管支に詰まった時の対処法を聞く機会がなかったので勉強になりま  
した。今後、そういった場面にあったら怖がらずに行動していきたいと  
思いました。

**3/23** 事例で学ぶクレーム対応では、対応が難しいなと思う事例もあり  
他の方の意見を聞いて気づくところもありました。事業者側が正しいかど  
うかではなく、クレームの対応、相手がどう感じるかが重要なポイントだ  
と解りました。デイサービス四季を見学させていただき、利用者さんが髪  
の毛を乾かすお手伝いをしていたり、個別機能訓練などこんなこともやって  
いるんだと視野が広がった気がします。

トイさんの話は聞いていてウルッとしました。トイさんの人柄や考え方  
がすごいなと思い、自分を見つめ直すことができました。自分には何が  
できるのか考えながら、笑顔と感謝の気持ちで努めていきたいと思いま  
す  
新任研修に参加させていただきありがとうございました。

## 平成 30 年度 新任職員研修復命書

所属施設	信濃寮	職種	介護士
<p>今回の研修でいろいろなことを学んだ。光の園では実際に視覚体験を受けたことで、見えない世界での怖さが想像以上であることを改めて学んだ。</p>			
<p>短大でも視覚体験を数回行い学んだが、何回行っても慣れるものではない。</p>			
<p>視覚障害の方がどんな思いで日々過ごしているのか、そしていかにわかりやすく安全にサポートすることが大切かを改めて学ぶことができた。</p>			
<p>認知症サポートセミナーにおいても同じであった。視覚障害のサポートではその方の立場になって考えサポートすることが大切であるが、同じく認知症の方も否定的になるのではなく相手の立場となって物事を考えることでより相手の気持ちに寄り添った介護が出来るのではないだろうか。</p>			
<p>そういった相手のことを考え手助けできる人物こそ、「照千一隅」の精神なのだ、学ぶ中で実感ができた。介護において自分は例え小さくて弱い灯火であったとしても、周りの人達を照らし助けられるような介護福祉士でい続けようと、常に念頭に置いて日々働いていきたい。</p>			
<p>もう一つ、ビジネスマナーの講座の中でハッとさせられたことがある。「相手に届くあいさつ」と学んだが、その「届く」というのは「聞こえるように」といった聴覚的なことではなく、「相手の姿に目と体を向けて心から挨拶」することだというのだ。3月までファーストフードでアルバイトしていた私にとってまさに目から鱗だった。忙しさにかまけていた私は、仕事の手を動かしながらお役様に挨拶をしていた時も度々あった。100%でなくてもいいと心のどこかで思っていた自分もいたがお客様にとってはいい加減な挨拶をされて気分がいい</p>			

わけがない。お客様一人ひとりとの出会いは一期一会で仮に 100 人いる中、99 人に心のこもった挨拶ができたとしても、たった 1 人にぞんざいな挨拶で済ませてしまったらそれは 100 人の全てに挨拶をしなかったことと同じなのではないか。

そしてそれは介護の世界においても同じである。利用者さま一人ひとりに真心を込めて接することこそ、「相手に届くあいさつ」なのではないだろうか。日々当たり前と思う中でも、振り返ればまだまだ気が付かされることばかりである。時々立ち止まって振り返り、自身の行いを反省する時も必要であると考えさせられた。